

就職試験結果報告(10月12日現在)

9月16日(日)から企業の就職試験が始まり、一次募集の結果が全て企業から届きました。

今年の一次募集の内定率は近年では過去最高の結果となっています。好景気ではありましたが何よりも3年生が頑張ったことが表1のようによい結果をもたらしたと思います。今後もこの状況が続くことを期待したいところです。

就職試験ではほとんどの企業で面接と筆記試験が実施されます。なぜ、企業は面接が行われるのでしょうか。能力や学歴、自己PRや志望動機などを確認するなら、履歴書で十分です。外見も清潔感も、履歴書の写真を見れば分かります。面接を実施する理由は、人間性を確認する意味があるのです。履歴書があれば多くの点を確認できますが、全てではありません。

「言葉遣い・雰囲気・礼儀作法・コミュニケーション能力・臨機応変・考え抜く力」こうした人間性は、やはり直接会って接してみないと、具体的に分かりません。社会に出て働くということは、たくさんの人間関係の中で働くということです。

多くの人とうまくやっていくためには、言葉遣い・雰囲気・礼儀作法の三つが特に重要です。いくら能力が高くて、対人能力が低ければ、能力を十分発揮できないでしょう。そのため、直接本人と会って、その人のことを深く知る必要があるのです。

“企業は人なり”という言葉があります。今までどんな人間性を磨いてきたかが面接では問われているのです。1,2年生の皆さんのこれからの生活をどう過ごすか考えてみましょう。そして就職する3年生の皆さんも社会へ出る準備をしっかりとしてください。



表1 就職試験結果

	希望者(人)	内定者(人)	内定率(%)
県内企業	66	64	97.0
県外企業	199	189	95.0
合計	265	253	95.5

公務員試験結果中間報告

本年度公務員を受験した生徒の受験結果(10月12日現在)を表2にまとめました。公務員試験に合格するには、1次の筆記試験および2次の面接試験や適性検査をクリアしなければなりません。

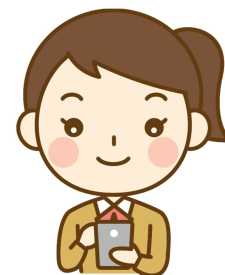
まずは、1次試験合格が絶対条件となります。そのためには幅広い基礎学力を身に付けることが大切です。公務員試験に対応するには、学校の授業や公務員の朝補習だけではなく、公務員対策の問題集を購入したり、公務員受験のための夏季講習に参加してダブルスクールをするなど自ら積極的に努力する姿勢が大変重要となります。早い時期から目標を定め、それぞれの公務員の特徴をしっかりと理解して、自分の適性とよく照合した上で公務員の仕事を選ぶことが大切です。“安定した仕事だから・・・”という安易な気持ちで受験したら大変なことになります。

表2 公務員試験結果

職種	区分	延べ 受験者数	延べ 一次合格数
行政	国	10	8
	都道府県 (政令都市含)	23	18
	市町村	9	6
公安	消 防	5	1
	警 察	7	4
自 衛 官		3	3
合 計		57	40



「SNS の利用方法は大丈夫？」



SNS への投稿が理由で内定取り消しになる可能性もある

現在、生徒の皆さんが最も注意を払わねばならないのが、SNS 上での企業や自身に関する言動です。採用企業側も生徒の facebook を確認する機会が多く、自身の何気ない発言が思いもよらない影響を生み出してしまうことがあります。

企業のイメージダウンになる投稿や、自身の素行の悪さが表れてしまう様なツイートなどは、絶対に避けるようにしましょう。また、採用試験が終わり、帰りの電車内で騒いでいたことが一般の方の投稿を経て採用担当者の耳に入ってしまった、という思わぬルートで情報が拡散してしまうケースもあります。実際にツイッターへの投稿が原因で内定取り消しとなった例もありますので、内定前後の SNS の使用に関して特に気を付けましょう。

内定後の SNS は最低限のモラルを守る必要がある！

企業側からも、内定者説明会では facebook や Twitter 上での発言に細心の注意を払う様必ず警告されます。内定者となった時点で、その人はすでに企業の一員として会社のイメージを背負っているのです。SNS で交流や発言を楽しむのは大いに結構です。しかし、自身の発言は多くの人に見られているという自覚を忘れずに、最低限のモラルをわきまえた上で利用する様に心がけましょう。

「七五三現象」について

少し前の話になりますが、「七五三現象」(新卒で就職した人のうち中卒で7割、高卒で5割、大卒で3割が3年以内に辞めてしまうという現象を表した言葉)は、内閣府が発表した平成 19 年度版「青少年の現状と課題」(青年白書)で報告されたことにより、広く知られるようになりました。近年では六四三になっていますが、この比率はあまり変わっていない状況にあります。この問題の大きな要因の一つとして、「生徒(学生)が思い描いていた仕事内容と実際の仕事内容のミスマッチ」が挙げられます。図1を見ると、離職理由として「仕事が向いていない」を挙げる人が最も多いことが分かり、この背景にはミスマッチの影響が窺えます。離職率の変動は、毎年若干景気の影響が関係(景気が悪いと離職率が低くなる傾向がある)すると言われています。

最も必要なことは、職業や仕事に関する情報をできるだけ多く集めることです。

「なんとなくこの仕事」というのではなく、世の中にはさまざまな仕事があるということを知った上で進路を決めることが求められます。前もって企業の正しい知識を身に付けておくことが、ミスマッチの軽減に繋がるのです。そのために、1・2 年生は、早期に自分の進路研究を行っていくように心掛けましょう。

また、進学者においても同様のことが言えます。希望先のアドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)を知り、ミスマッチを生じないようにすることが大切です。就職同様、進学先の情報を入手したり、オープンキャンパスを通してその学校を知る手立てを行いましょう。

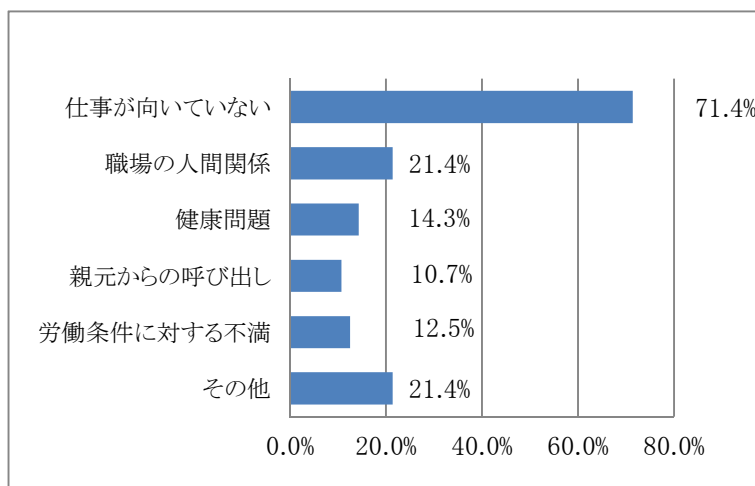


図 1 新規就職者の離職理由